

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

11 番上野淑子、登壇の許可を得ましたので、一般質問に移ります。

一般質問に入る前に、皆さまにお繋ぎしたいことがありますので、聞いてください。

8 月でしたけれども、佐賀県の婦人会、婦人会はイコール全国赤十字奉仕団の団員でございます。奉仕団員として陸前高田のほうに慰問に行かれました。そのときに、もう 3 回目になりますけれども、武雄市の山本さんの手編みのチョッキとか、それから北方のかみやのばあちゃんの手提げ袋何十個とかですね、持って、そのほかいろいろな物持って、行かれたんです。そのときに、どうしても、ということで、陸前高田の戸羽市長さんからですね、どうしてもこれは伝えといてくださいということでした、連絡ありましたので、お伝えいたします。

佐賀県からは、ほんとにたくさんの支援・応援をいただいております。特に武雄市におかれましては、樋渡市長初め、本当にたくさんの支援・応援をいただいております。いつも忘れることなく、いつまでも続けていただいておりますことにですね、感謝しておりますということ。市民の皆さんと共に、武雄市長にお礼を伝えといてくださいとことでしたのでお伝えしたいと思います。本当にありがとうございます。（発言するものあり）

このようにですね、本当に忘れることなく、市長の優しい心ですね。感謝しながら私は一般質問を続けていきたいと思っております。

では一般質問に入りますが、きょうは、3 期目を新しく表明されました樋渡市長の発言と共に山口昌宏議員、牟田議員の質問とですね、大分重なることがたくさんあります。3 期目を迎える樋渡市長は、教育に命をかける、新しい教育に取り組むということで中身についても、もろもろのことをおっしゃっていただきましたが、改めて再度、私も質問をしますが、よろしくお願ひしたいと思っております。

始めに教育についてです。これも今申しましたように、市長が新しく教育を変える、進めていくこの教育について質問をいたします。2 番目に公共施設の耐震について質問いたします。3 番目に保健センターのあり方について質問をいたしたいと思っております。

では、まず始めの質問ですけれども、教育についてでございます。私たちは常に大きな目的を持ちながら、学校の先生方は教育をされていますし、私も 35 年間教育の現場にありまして、将来に夢を持ちながら、子どもたちを教育してきたつもりでございます。ここで 3 期目を迎え、新しく教育に燃えられる市長の大きな目当て、どういうふうな子ども像を望んでいらっしゃるのか、どういう子どもを期待していらっしゃるものなのか、その人間像を私たちもはっきりと受け止め、そしてそれに対してどのような施策を考えていらっしゃるのか、その施策を現場ではどのように活用していかれるものなのか、教育についてこの 3 点をお聞きしたいと思っております。まずは市長の子ども人間像に対して、どういう期待される子どもの姿についてお聞きしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょうは3期目の出馬の表明をいたしたところであり、議員が御指摘のように、教育に命をかけていきたいということを言いました。私は有言実行であります。その中でよくよく考えたときに、きょう傍聴も多くの皆さんたちがお越しなんですけれども、自分たちが子どもだったころと今とで考えたときに、どっちが幸せだったんだろうかって。今、皆さんたちが子どもだったら、そう本当の子どもだったときとね、比べるとどっちが幸せなんだろうかっていうのを、胸に描いてほしいんですよ。そのときに、確かに昔貧しかったと思います。私が生まれたときも私の実家の前の県道は、まだよく覚えてますけれど砂利道でした。県道でありながら砂利道でトラックとかが通ると、こう、ばーってなんか土埃がおきて、うちの庭に直撃してたって、いうことをすごく思い出しますし、そういう中で私もまだ戦後といったらね、ちょっと皆さんたちからすると、きょうお越しの、特定の年齢を指しているわけではありませぬので。なんかね、そう考えるとちょっと戦後じゃないよねっておっしゃる方かも知れないんですけど、少なくとも僕はそういう状況で、今よりも貧しかったと思うんです。それがよかったって言うつもりはありませんけれども、じゃ、あの当時のおかれた子どもの状況と今、子どもが大人になったときっていうのは、確実に環境は多分厳しくいってると思うんですよ。いろんな環境が厳しくなってる。社会環境もそうだし経済環境も厳しくなってるときにですね、僕らが考えなきゃいけないのは、将来この子どもたちは大人になります。この子どもたちが将来幸せになるためには、今のうちからその教育のあり方っていうのをちゃんとやっぱり見据える必要が僕はあると思ってるんですね。すなわち魅力的な大人になる、魅力的な大人になる、自立して飯が食える人間になる。うん、それがすごく大事。それを考えて逆算した場合に、果たして今の公教育がそれにちゃんと見合っているかと。正解を探すのはね、例えば年号、大事ですよ年号ね。でもそれで、なんかな、正解してね、いやその点数が高かったから、まあ、それは偏差値教育ってなるかもしれないけれども、恐らくその将来の幸せに僕は結びついてないような気がするんですよ。昔は、いい点数をとって、いい大学に入って、いい企業に入って、大企業に入ってっていうのが一つの幸せのシンボルだったじゃないですか。だけど、その大きな企業ってもうほとんど今は見るかたもないようになってるじゃないですか。だから僕は魅力的な人間になって、この議員の皆さんたちみたいな、なんで目を伏せるんですか皆さん。魅力的な人間になって、おまんまが食べれて、飯が食えて、そういう人間にするためには、さっきも言ったように、生き抜く力が大事だと。これね、小学校が1番大事だと思います、僕は小学校が。保育園とか保育所の必要性ってあるんですけど、小学校っていうのがすごく僕は大事だと思っていて、これは私は、市内の小学校を大体全部回っています。市長さんに似とうですとねと言われて、本物ですと言うときもありまし

た、子どもたちから。小学校を全部見て回る、あるいは中学校も見て回る。その中でやっぱり小学校というのはすごく大事だと思っていて、そこでやっぱりですね、小学校で大事なのは遊ぶってことなんです。遊びきるっていうことがすごく大事。我々が小っちゃい頃ってみんなであそんでたじゃないですか。その環境が今ないんですよ。だけど、公教育の中で遊びきるって。

それともう一つね。楽しく学ぶっていうことなんです。学ぶことそのものが楽しいって思うことが僕は大事だと思っていて、それは、理念を言うのは誰でもできます。それを実行に移したいっていうふうに思っていて、だから100の議論より1の実行、できない理由よりもできる理由を言って、そういった学校をぜひ始めていきたい。これは文科省の指導要領にのっとって、かつ特区とかつくらないで既存の制度の中で、学校の先生が主体的になって、そういう教育をぜひ進めていきたいと思っています。

いずれにしても理念はあるんですけど、方法論については県の教育委員会、文科省、そして浦郷教育長を初めとする教育委員会と、十分なすり合わせは必要だと思ってますし、これは牟田議員のところにもお答えしましたけれども、地域の皆さんの納得・理解ということも必要だと思ってますので、これはなかなかハードルの低い話じゃないと思うんですね。それは1個1個丁寧に、かつ慎重にね、話を進めていきたいと、このように考えております。

私は教育の根幹ってというのは、生き抜くということだと思いますので、それだけじゃないかもしれませんが。ないかもしれないんですけども、政治に携わる人間としては、そういう子どもたちをね、将来幸せになる、大人になったときに幸せだって思って、1人でも思ってくださいような大人にぜひしてあげたい。そのサポートはぜひしていただきたいと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

生き抜く力を大切にという市長の気持ち、よくわかりました。では、その目標に向かって、今市長はどのようなことを施策として考えられているのかも、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは今ね、浦郷教育長を中心として、教育委員会がさまざまな——例えば土曜日等の開校によって授業日の確保であるとか。僕はゆとり教育、もう大嫌いでもんね。僕はゆとり教育は反対です。ですので、そういう、なんというんですか、土曜日の確保であったりとか、さまざまな工夫をしてもらってます。例えば中学校3年生を中心にして、土曜日学習会って、これ行ってる生徒さんから物すごくいいってことを僕自身聞くんですよ。ですので、そ

ういったことを。

それとあと、塾のブレストさんであったりとか、すぐれた塾の、S I さんもそうですけど、今連携を、今進めているっていうこともそうです。ですので公教育の中で我々ができることっていうのは、今精一杯、特に浦郷教育長を中心としてやってくださっているということでもあります。

その上で、我々が3期目当選させていただきましたら、議会の皆さんとともにやっていきたいのは、これは牟田議員さんのときもお答えしましたけれども、やはりICTをちゃんとやる。

僕は保育園中退、小学校も不登校ぎみ、高校のときは寝たきりです。大学的时候はもっと寝たきりで床ずれができました。ですがあの授業を、僕は集団の中にいるっていうのが無理なんですね。もう本当、これは協調性もないです。集団行動もできません。友達は上野議員さん以外いません。ですので、そういう中で言うとはですね、やっぱりこういう、なんちゅうんですかね、特性を持った子どもが、でも学びたいっていう気持ちはあったんですよ。だけど、学校には行けないってやっぱりあるんですね。それを家の中でね、いい授業を聞いて、あ、これだったら学校に行ったほうがよかばいというふうになるようにね、ぜひしていきたいなって思ってますし、それが、ひいては過疎地、特に過疎地の地域振興の切り札になる。すなわち、この学校を目指して、いろんな人たちが移り住んでくると。今のシンガポールとかマレーシアのジョホールバルみたいに、移り住んできてくださるということにつながっていくということと、先ほど申し上げましたように、私不登校でしたので、不登校の子たちのケアに、つながっていくということも思ってますので、やさしい教育改革を、こう強いとかそういうんじゃなくて、偏差値教育とかじゃなくて、優しいね、子どもたちにとって、親御さんたちにとってね、やさしい教育っていうのをぜひ考えてみたいと、このように思ってますし、ぜひ上野議員を初めとして、議会の皆さんたちのアドバイスを賜ればありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

やさしい教育を目指して生きる力をとということですがけれども、1つここでお聞きしたいんですけども、市長の議会の当初のときに、教育監についてを起用したいということでしたけども、それはこれとはどういうふうに関係になってるのかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、不勉強で、事前審査とかっていうのを、ちょっとよくわかんない人なので、すみませ

ん、ちょっと事前審査になるようでしたら、ちょっとストップをかけてほしいんですけど。

教育監、今度、代田先生、代田昭久さんを起用しようということで、必要な予算については、議会のご審議を賜るということになっています。これがまず前提です。その上で、代田先生っていうのは、もともとリクルートの御出身で、東京都の杉並区立和田中学校、もともと成績がそんなによくなかった中学校を上、成績を上位に押し上げた校長先生なんですね。そこで1番彼がやっていたのは、ICT教育なんですよ。ICT教育ですので、そういう現場での知見、豊かな見識、そして豊かな経験ですよ。ぜひ武雄市に取り込みたいということで、スタッフとして、教育監ということでぜひ来てほしいってということで、合意はしていただいているんですね。これは教育長の下に教育監を置きます。教育長の下に教育監を置くと。

これは武雄市で例を出すと、これは演告でも申し上げましたけれども、私のところに、蒲池真澄、池友会会長さんが、病院の民間委譲に伴いまして、医療統括監で入って、実際、現場で物すごい力を発揮していただきました。ですのでそれに倣って、今回教育行政ですので、教育長の下に教育監を置かせていただくと。実際の仕事っていうのは、まずICT教育の、武雄はこういうふうにあるべきだということを、教育長の指揮の中で具体的につくってもらうと。

それと、私は年内に選定と申し上げましたけど、教育長から怒られました。年内とか言ったら遅いです、って。もっと早くしましよっていうことですので、その機種を選定であるとか、そういうソフトの選定についても、委員会の主要な構成メンバーとして、実際選んでいただくということも考えております。ですのでICTの推進の担当であります。

これ長くなりましたけど、佐賀県の場合は、最高情報統括監っていうのがいるんですね。知事の下にいます。この人は知事よりも給料が高いんですけども、今、森本さんっていうマイクロソフトの出身の方がいらっしゃいますけれども、その考えにやっぱり近いところはあります。ですので、わざわざ私のところに最高情報統括監を置くのではなくて、やっぱり1番大事なのは教育ですし、タブレットをお配りするということまで決めてますので、その中でICT教育の今後のあり方について、具体的にその計画であるとか、選定であるとか、というのに中心的に関わっていただきたいと。そして教育長を補佐していただきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

教育監のことについては、よくわかりました。

それはICT関係のことでありまして、もう一つ、一面、心の問題のところにつきまして、どのような教育、そこもまた教育監という名前かどうかわかりませんが、考えてい

らっしゃるものなのか。私はせんだって高濱先生のお話をお聞きしたときに、ああ、市長はこの人をこれからの教育の師事としてなさるのかなと思って、感銘してお聞きしたんですけども、その点についてもお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

今のも教育監の関係ですか。

〔11番「はい？」〕

教育監についてですか、教育監。今度の。

○11番（上野淑子君）（続）

どのように、高濱先生を……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

今市長が答弁された分はですよ。市長の演告の中で、答弁された分を言われたので注意はしませんでした。だから、なるべく中身には触れないよう、教育監についてはですね、今回議案に上がっておりますので。（発言する者あり）

○11番（上野淑子君）（続）

はい。では教育監としてではなく、高濱先生についての考えをお聞かせ願います。

○議長（杉原豊喜君）

注意して。

〔市長「はい、注意します」〕

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先般、高濱さんですよ、高濱さんにお越しいただいて、図書館で講演をしていただいたときに、ものすごく評判がよくて、特に親御さんが多かったんですよ。親御さんが多くて、ぜひ次回もというお声を直接に、かなりいただいています。高濱さんがおっしゃったのは、やっぱりですね、子どもたちにすごくやっぱり、力を向けているというのは、それは当たり前なんですけども、もともとすごく教育の現場でも軽視していたのは、軽く思っていたのは、保護者、特にお母さんのケアが必要だと。今、都会、田舎でも、うちみたいな田舎でもそうなんですけど、お母さんが孤立してると。昔は3世代あって、旦那さんが遅くまでいてもおじいちゃん、おばあちゃんがいたけれども、核家族は進んでいるというところで、お母さんにもものすごく負荷がかかっていると。ですので子どもたちの教育のためには、このお母さんのケアが絶対大事だということを切々と訴えられたんですね。それは、御自身もいじめに遭われていて、そのお母さんに救われたって。

今でもいろんな、例えばテレビに出たりされてます、今「朝ズバッ！」とかにも出ておられます。「情熱大陸」にも出ておられます。そこでも、お母さんに認めてもらいたいということをおっしゃるわけですよ。ですので、母親の存在が最も大きいということをおっしゃって、

だからこそ、その保護者の皆さんたちに胸に響いたって。

1 番僕がびっくりしたのは、じゃあ旦那はどう思えばいいかと。旦那は犬と思えって言われました。亭主は犬と思えと。ですのでどういうことかということ、期待をするなということ、きょうもたくさんのお母さんたちがいらっしゃいますので、ご主人には期待をしないでって、高濱先生がそういうふうにおっしゃってたんですね。そうすることによって気持ちを相対化して、子どもたちとそういう意味で向き合う時間もふえて、それは孤立化しないってことをおっしゃっていましたので、それが繰り返しになりますけど、高濱さんの今の教育家としてのやり方ですので、御希望がかなりありますので、今度また、お忙しい人なんでもいつかわかりませんが、ぜひまた今度は文化会館の小ホールか大ホールで、ぜひこれは講演会をさせていただければありがたいと、このように思っております。ですので、高濱さんをすぐ招くとかというのは考えておりません。もうとにかくお忙しい方ですので。

ちょうど考え方とすれば、がん教育をやっていたら中川先生ですよね、中川恵一先生ですよね。市政アドバイザーにもなっていたら、今中学校でがん教育もしていただいて、これはいろんな新聞にも載りましたけれども、そういう感じでアドバイスが賜ればありがたいなど。あるいは講演も含めて、いろんな御知見をいただければありがたいなど、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番 上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

そのようにですね、物と物、ICTを使う関係と、それから心の面と、あとは両方伴っていかなくてはならないんじゃないかなと思っております。

それでは、今まで市長の大きな目的について、私にも少しわかりましたが、それを市長としては、そのようにしていくと今おっしゃいましたが、じゃあ教育現場としては、どのようにそれを受けて計画をされていらっしゃるのか。これから計画だとは思いますが、どのようにお考えなのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市長が命がけでやるとおっしゃっております。私は命2つぐらいなかないと追いつかないんじゃないかなというふうには思っております。

実際に教育の現場に浸ってたわけで、どうも発想としてですね、やっぱりその中にどうしても埋没しがちになるわけでありますが、ただ、山口昌宏議員さんのときにもおっしゃいましたけれども、やっぱり保護者の方にしてもですね、地域の方にしても、今の子どもたちが生きる社会見えないから、とにかくたくましく生きてほしいという思いは、やっぱり共通す

るんじゃないかなというふうに思います。

出してもらっていいですかね。

(モニター使用) 生きる力をつけると。ここに、たくましく、あるいは生き抜く力という言葉になってくるわけですが、義務教育でありますので、やっぱり心も体も頭も調和の、より高い調和と言っているんですが、調和のとれた子どもを育みたい。そのためにですね、具体的に確かな、確かなじゃないですね、豊かな心、確かな心やない、豊かな心。確かな学力、そしてたくましい体の育成というようなことで、各学校、そしていろんなところで、社会教育含めて子どもたちを指導していただいと。

取り組みの柱としてたくさんあるわけですが、それぞれ質問がありましたように、情報社会というのは間違いない方向であろうし、国際理解の必要な時代に生きるであろうというこの2つは、もう間違いないことであろうというふうに思っております。

そういう意味で、例えばICTでありますけれども、今非常に不安な面をお持ちの方も多かろうというふうに思います。それで、現在、各小中学校に、例えばICT推進リーダーという方がいらっしゃいます。そしてその先生方を中心に各学校ではやっていただいて、市全体としては、この5分科会をつくりまして、小学校の低学年、高学年、中学校部会。そして特別支援教育部会。最後に1番心配な面、子どもたちが持ち帰ったときにどうということが心配かと。そういうようなことまで含めて、安全面まで含めて、セキュリティ部会というのを立ち上げまして、それぞれに準備をしているような状況でございます。

これがICTに、この取り組みの柱の1つとしてですね、社会の進展に対応した教育の推進、その中の1つの取り組みとして、ICT教育の現在の状況等を述べさせてもらいましたし、今後、確かに取り組みをしていきたいというふうに思っております。

ほかに申し上げさせていただきますと、例えば、学力の育成では、先ほどありましたように、土曜日等開校で現在、年間10日程度の土曜日等開校を試行中でございます。

それから幼・保・小、中が抜けておりますが、幼・保・小・中連携ですね。これではコミュニティースクール等で、やっぱり中学生まで含めた15歳までを、最低見ていかんといかんのじゃないかという視線での取り組みと。こういうことが大事になってこようと思っておりますし、おそらく今までの考え方とかなり大幅にアップしたですね、教育観を持って取り組むことが、教育を第一の施策に上げられました、市長のもとでの教育ということの可能性ということを感じているところでございます。

○議長(杉原豊喜君)

11番上野議員

○11番(上野淑子君)〔登壇〕

共に生きる力を目指して、教育、いろんな手法でされていかれると思いますが、市長の答弁にもありましたように、不登校の子どもとか、それから障がいを持つ子どもたちに対して

も、今5部門に分かれているという表を見せていただきましたが、5つのあの表をちょっと見せてください。特別支援教育部会というのも今回は特別に設けているということでしたが、本当に武雄市の子どもたちは、全員が同じ教育を受ける権限を持っていますし、同じICTについても使う権利をもっております。そこでいつも市長がおっしゃっています、自分是不登校だった。学校も行かんでこうこうしよったとおっしゃっています。その子たちもいます、発達障がいの子どもたちもどんどん増えてきています。その子たちに対して、今どんどん進んでいくこのICT教育が、いろんな教育面について、どのように考えていらっしゃるか、お聞きしたいと思うのです。今、教育長さんよりこれを見せていただいて、特別支援教育部会というのを見ました。これは多分学校の特別教室だった支援学級じゃないかなと思います。そのほかにも不登校とか、いろんな、本当にみんな一緒に教室に一同に介して授業を受けられない子どもたちもたくさんいる。それから病弱で来られない子どももいる。そういう子どもたちに対しては、どのように考えていらっしゃるのかもお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとICTに関して、予算をちょっと確保する立場から、ちょっと申し上げたいと思います。それで、これでちょっと私の答弁で十分じゃなかったら、教育委員会が答弁をいたさせますので。

私自身は自分の経験であるとか、例えば、障がいをお持ちのお子さんと直接話をしたときに、やっぱりですね、学びたいっていう、楽しく学びたいっていうことは、異口同音にやっぱりおっしゃるんですよ、子どもたちが、自分たちの言葉で。

そのときに今の教室というスタイルだと、僕もそうでしたけども、その中に入ると息苦しくなるって。今でも僕は議会に来ると息苦しくなります。いや、そうなんですよ。だから、こういう集団の中にいるっていうのは、非常に、実は今でもちょっと心臓がバクバクしてるんですよ。ですので、そういうことを考えたときに、例えば、さっき議員いみじくもおっしゃられましたけれども、なかなか身体的な障がいであるとか、精神的にちょっとなかなか難しいとかっていうことでも、タブレットを渡すと、ものすごくそこにぐーってやっぱり、のめり込んで、これは楽しいっていう子どもたちって、やっぱりたくさんいるんですよ。実際その子たちも話をしてみました。あ、こいやったら自分もできるって、楽しいっていうことですので、今のリアルな現実の社会でどうしてもできないようなことを、そこでできるっていう可能性、それとリアルな教室よりも、こちらのほうが楽しいっていう付加価値のある可能性、いろんな可能性が私あると思ってるんですよ。ですので、それを、これは黒岩幸生議員からも先の議会で指摘されましたけれども、例えば一部の小学校だけじゃなくて、今度は全部の小学校、全部のお子さんにやっぱりお渡しすることによって、障がいをお持ちの

お子さんにもお渡しすることによって、そういう我々が知らないようなね、可能性もぜひ導き出してほしいなっていうふうに願っています。それが私は、本当の意味での公教育だと思いますので、そういったお力添えをね、いろんな、きょう全国でも配信されていますけれども、そのお力添えを、具体的なお力添えを賜りたいと。何もお金がほしいとか、補助金がほしいではなくて、こうすればもっと楽しく学べるよとか、こうすればもっと感心をひいてもらえるよというようなアドバイスをいただければありがたいと思ってますし、最後にしますけど、具体的に言うと、これは「NEWS 23」でも出ましたけれども、科学雑誌のニュートンの、僕はソフトを自分でもやったんですよ。例えば、惑星に隕石がぶつかる。これって教室では無理なんですよ、再現が。だけど音が入っていて、かつタブレットで、そのぶつかるときの、例えば波動とかっていうのは伝わってくるんですよ。それが今度は振り子の原理として、それが次に応用していくっていうことになると、これはどう考えても、教室で生身の先生が一对多数に教えるよりは、そういうタブレットで、例えばニュートンの例を出しましたけど、そういうアプリケーションを入れてやったほうが子どもたちにとっては、僕はそっちのほうが絶対楽しいし、よくわかるということになりますので、そういうリアルな世界でできないようなことはぜひやりたい。

これちょっと繰り返しになりますけど、じゃあICT教育に全部置きかえるかって、それは無理です、無理。例えば理科の実験なんかは、タブレットよりも実際に来て、みんなでわいわいがやがや言いながら、ちょっとこっちのチームは実験結果違うよねって、これはリアルが大得意なんです。家庭科だってそうです。ですので、それはICT教育、タブレットが得意なところ、不得意なところは、今までの授業っていうのはちゃんとやるということで、その使い分けっていうのは、ちゃんと我々が選別しなきゃいけないなというふうには思っております。

もし、教育長、はい。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

1つだけ追加させていただきますと、この特別支援教育部会、ここを御指導いただくためにですね、ICT推進協議会に国立の特別支援教育の学校の第一人者であります、金森先生という方に協議会の委員に入っていておまして、このICT関係の特別支援教育でのICT関係の第一人者であります。そういう面で幅広く指導をいただいております。この組織含めた取り組み自体がですね、今、本当に先進的に頑張ってもらっているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

I C Tは本当、道具の一つとして使うことでありましようが、これだけで全部をできるということではないんですけれども、今私が申しましたように、本当に障がいを持った子どもたち、そういう子に対しての教育、I C Tを使うというのは大変なことだと思うんです。1対1ではありますしですね。だから本当に現場の先生方の大変御苦勞であるが、でもそれはぜひしていただきたいと思っております。本当にみんなに、私は武雄市の子どもたちにみんな夢を持って、元気で楽しく学習をしながら、生きる力をとおっしゃる、その目的を達してもらいたいのですね。ぜひ、本当大変でしょうけれども、現場の先生方にもお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、もう、学校の先生も大変なんですよね。なんちゅうんですかね、いろんなペーパー出さなきゃいけなかったりとか、あるいはね、保護者からも直接こうわんわん言われたりとかって、もう非常に大変で、うちの妹はさっきの答弁でも答えましたけど、うちの妹は小学校の教諭なんですよ。10年前と比べるとどうなったかっていうと、明らかにやっぱ忙しいってことは言うんですよね。だから、そういう心の余裕とかっていうのは、なかなか見えてくれないということを書いて、なんかもう研修ばかりだそうなんですよ。ですので、もっと子どもに向き合う時間をやっぱりつくんなきゃいけないっていうことを、妹とかほかの学校の先生からも聞いて思っておりますね。その中でI C T教育というのは、実は学校の先生の負担もやっぱり減ると思うんですよ。例えば英語だけ考えてみてもそうじゃないですか。うちの妹は、英語なんかしゃべれないですよ。日本人です。その時間よりはむしろ、さっき言ったようにI C Tの教育で、実際の、例えばアメリカ人でもイギリス人でもいいですけれども、そこがわかりやすく、自分のところの国の発音で、ビデオ学習でもいいんです、I C T教育でもいいんですけど、語りかけて、それでもどうしてもわかんない子に対してはね、例えば生身のうちの妹のような先生が、アイ・アム・ア・ドッグとか——私は犬じゃないか。まあ、よくわかなんないですけど、それをちゃんとフォローをするって。そうすると、うちの妹は、それだったら兄ちゃん、私でもできるよって。それを一斉に教えるとか、できる子だってやっぱりいるわけですよ、塾に行ってそこに教えるのは大変って。それよりも、なかなか上達がね、自分では意欲あるけどもなかなかできない子を集中的にフォローしたい。そのためにはI C T教育っていうのが入ってくればね、これは楽になるよねっていうのを言う先生方もいらっしゃるんですよね。だからそういう意味で言うと、あと採点も楽になります、I C T教育、タブレットを入れると。残って採点して、またこうしなきゃいけないというのは、一瞬のうちに、タブレットの場合できますので、採点もできるんで、そういう意味

で言うと、負担は大分減るだろうなということを思っています。

ですので、ICTも大事なんですけど、もっとやっぱり学校の先生が伸び伸びできるように、もっとね、書類は減らすべきだと思いますね。あるいは研修も減らすべきですよ。しょっちゅう言ってますもん、いろんな先生聞くと、教育長。ですので、やっぱり学校の先生がもっと生き生きするような環境を我々は行政としてもつくっていく必要があるだろうなと思っています。学校の先生は非常に真面目な方がやっぱり多いんですよ。やっぱり10を要求すると、15ぐらい返すというので、だんだん自分が追い込まれていくっていうのもあったり。むしろ、さっき私は保護者の孤立のことを言いましたけど、学校の先生もよく見ると孤立しているんじゃないかなと思うときがあるんですよ。要するに保護者からのプレッシャーだとか、学校の中でのプレッシャーとかっていうのがあって、そこをちゃんと、やっぱりケアしていく必要が僕はあるだろうと思っています。だからいずれにしても、ICT教育もそうなんですけど、もう一つの主眼は学校の先生の負担を減らして、子どもさんに向き合う時間を増やしていくとこれが求められているし、これについても私は力を尽くしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に嬉しく思います。くどいようですけども、そういう点については以前からも質問をしておりましたけれども、先生方に対する、新しいことを導入する、指導、周知の指導方法とかですね、時間帯とか。それから今おっしゃったような、心、子どもと心と向き合うというその時間帯、たくさん問題がありますけれども、教育長のお考えも一言、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確かにですね、研修を言ったり、文書を要求してるのは、全て私の名前で出ておりますので、ちょっと一概に一言で片付けられないところもあるんですけどもですね、ただ負担軽減については、もう共通することです。

それから、幸いなことにですね、私は保護者の方、市民の皆さんにお礼を言いたいんですけど、市内の学校の先生方ですね、非常に、調子悪くても、武雄市の場合、だんだん調子を出してもらっておりましてですね、ほとんど、休む、病気で休むというような方が非常に少なくなっており、そういう面では本当に支えていただいているというふうに思います。

またICTも当然、勤務の縮減を目指して進めておりますし、先ほどの話のようにですね、私どもも教育委員会もまた、努力していきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

市長が命をかけるほどに、本当に大事な教育です。どうぞ、私たちもきょうお聞きになった皆さん方も、市長の大きな目当て、それからこれからの施策については、大方おわかりいただけたんじゃないかなと思います。私たちも地域もこれに協力をしながらですね、同じ目的に向かって一丸となって進んでいけたらいいなと思っております。

では次の質問に入ります。

次は、公共施設の関係の耐震についてお尋ねをいたします。学校関係だけの施設について伺います。

学校は子どもたちの命を守るのは、もちろんのことですけれども、地域の防災の拠点として、本当に大事なところなんです。東日本大震災についても、耐震については本当に本会議で何回もですね、何度となく、何人の方からも議論をされておりましたが、対策のほうもどんどん進んでいってると思いますが、せんだって、8月7日の新聞に文科省の発表が載っておりました。公立小学校の耐震化率は90%を超えました。前年の11都道府県から21に達したとして、倍になったと書いてありました。そして文科省としては、2015年度には耐震化の完了を目指すとしております。全国で1位は静岡県で99.2%、愛知県は99%、宮城県は98.7%、我が佐賀県は86.0%と、本当にこうずらっと見てみてもですね、地域差が本当にあるんだなと思いました。今回初めての調査で、新聞にも大きく載っておりましたが、屋内運動場の吊り天井のことについてもですね、57あるということが発表されておりましたけれども、今、我が武雄市ですね、学校関係の耐震化というのは、どのような状況なのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

学校施設の耐震化率につきましては、文科省から今年の4月1日現在の数字が発表されておまして、佐賀県の全体の数字につきましては、おっしゃられましたように、86%ということになっております。武雄市ですけれども、ほぼ同じ数字ですが、85.1%ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

その新聞のときにですけれども、15年度の完了を文科省は目指しておりますが、佐賀県の中では、伊万里市、武雄市、佐賀市が15年度には間に合わないと載っておりました。そして

その中でも一番遅れている伊万里市は、22年度には完了の予定ということを書いてありましたが、武雄市はどうして15年度までに入っていないか出てきているのかなと思っておりますが。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

武雄市では耐震化率を満たしていないという建物が、校舎がたくさんございまして、年々です、工事費をたくさんいただきまして、工事を進めているところでございます。

本年度につきましては昨年からのですね、繰り越しも含めると、約17億円の経費をかけて、武雄小学校、武雄中学校、山内中学校、それから北方小学校の体育館、こういったものを改修を進めているという現状でございまして、特に、平成18年の合併以降、合併特例債という起債を活用して、事業を大幅に前倒して進めてきたという現状でございまして、いかにせん建物が非常に多いということもございまして、現在では85%程度の率になっているということもございまして、今後につきましてもですね、なるべく早く工事を進めたいというふうに考えておるところでございます。

事業の完了年度につきましては、これまでですね、計画としては平成32年度ぐらいまでというふうに思っておりますけれども、これも1年でも早くということで、今後財政局ともお話をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ちょっと聞いてびっくりされたと思いますけれども、文科省は15年度で完了予定ということ、全国に知らしめておられますが、うちは32年度。

○議長（杉原豊喜君）

2000と平成とをちょっとごちゃまぜにしとるけん、その件を明確に。

〔11番「そうですね。西暦とあれと、どうなんですかね」〕

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

上野議員は西暦で申されておりますけれども、私は年号で申し上げました。私、平成27年というふうに申し上げましたけれども、西暦で申し上げますと2015年ということになります。

○議長（杉原豊喜君）

ちょっと待ってください、いいですか。

部長ちょっと質問いいですか。

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

私は、すいません、西暦で申しておりましたけれども、2015年に完了の予定ということで、我が武雄市はどうですかとお聞きしたんですけれども、15年にみんな完了するんでしょうか。そこをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

申し訳ございません。西暦で申し上げますと2022年になります。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

多分計画はできていると思いますが、優先順位もお聞きしたいと思います。15年度で終わって22年度まで伸びるのは、もう学校名もわかっているんでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現在平成25年で工事を行っていますのは、先ほど申し上げたとおりでございます。それから、26年度以降ですね、来年以降になりますけれども、武雄小学校の体育館、武雄中学校の体育館、川登中学校の特別教室、北方小学校の管理棟、武雄北中学校の教室棟、それから北方小学校の教室棟と。このような順序で事業の実施を考えております。

〔11番「ちょっと違う」〕

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

すいません、またちょっと行き違いになりましたけれども、完了が15年となっております。そこまでは大体わかると思いますが、それを出たのはどこなのか、それがわかりませんか。学校名とかも、できればお聞きしたいと思います。計画としてですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

15年、2015年ということですけど。（発言する者あり）

静かに。

〔11番「すいません質問が——」〕

古賀教育部長。

〔11番「おかしかったですかね」〕

どっちかに統一して年号を。

○古賀教育部長〔登壇〕

本年度までにですね、着工してるのは、先ほど申し上げた通りでございまして、私が申し上げましたのは、来年以降ということで、最後が北方小学校ということになっております。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

確かめます。15 年の完了をめでで出ているのは、北方小学校が 22 年度完了ということでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

すみません。年号とですね、西暦で若干行き違いが生じましたけれども。私、平成 32 年というふうに申し上げました。それから平成 32 年をですね、西暦で申し上げますと、2022 年というふうに……(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

[11 番「いいです、わかります、どうぞ。はい、いいです、どうぞ。』]

○古賀教育部長(続)

そういうふうに申し上げましたけれども、2020 年ということになりますので、平成 32 年にですね、北方小学校が終えるというふうに考えておりますので、西暦で申し上げますと 2020 年ということになりますので、訂正をさせていただきたいというふうに思います。

[11 番「はい、わかりました』]

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

すみません、平成か年号かで私もいろいろ質問こんがらがって失礼いたしました。

では、確かめます。2015 年を過ぎて、2020 年度までにできあがるのが、北方小学校ということを確認したいと思いますのですが、そこで質問です。子どもたちは、みんな一緒です、先ほどの話じゃないですけど。全部一緒ですけれども、北方小学校だけは 20 年まで、災害はいつ来るともわかりません。先ほど、市長は命をかけて教育するとおっしゃいましたが、命がなくては教育もできません。やっぱし、私は大事なことだと思います。20 年度まで北方小学校に待っつけ——我々はそういう立場ではないと思います。だから 1 年でも 1 日でも、前倒しをして、武雄市の子どもたち全員に同じ状態で、教育を受けてもらいたいと思います

が、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

上野議員の思いとですね、私たちの思いは全く一緒であります。

しかしながら、先ほど申し上げたまいりましたとおりですね、財源のこともございます。それから、工事を、一気に何十棟もできるという状態でもございませんので、ここら辺につきましては、最大限努力をさせていただいて、今年でいいますと、4校を実施をしているという状況でございますので、こういったふうに予算をいただいて、事業を進めてまいりたいというふうに考えておりますが、いかんせん、現在の計画では、平成でいいますと、32年ということになっておりますが。これを1年でも、あるいは、1日でも早くというふうに、私たちも考えておりますので、当局と財政当局と、また話を進めていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ここで私も「はい、そうですか」と言うわけにはいかないのです。

本当に皆さんも考えてください。自分の子どもたちが行っている、自分の地区の子どもは、それで黙って引き下がりますか。命をかけて教育をするんだったら、教育する場、子どもたちを守るのが専決だと私は思います。市長の考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、ちょっとそれは誤解がありますよ。

今でもね、例えば、倒壊寸前だったら、それはすぐやりますよ。ですが、例えば震度7とか8クラスのもの起きたときに、どれだけの、なんて言うんですかね、耐震率があるかっていう、いわゆる極限の状態で被災したものについて、優先順位をつけてやっているわけですよ。そりゃ私だって、今すぐやりたいですよ。ですが、それはできないです。それはなぜかという、この国の仕組みが、例えば年度別ごとに補助金というのをいただくんですよ。これは、1,000万とか2,000万の話じゃないんですよ。4億とか8億とか、場合によっては10億を越す予算をいただいでくるわけですよ。武雄市の財政は、200億円しかないんですよ。

ですので、それはすぐはやりたいんだけど、そうは言っても、倒壊の、恐れの高いものからやっば順々にやっばやっばしていくと。しかもさっき、教育部長が言ったように、普通1年1校でやるんですよ。しかし、これは、私も教育長も強い意向で、4校やっているんですよ、4校。

ですので、それはやっぱりね、議員さん、そこは評価してもらわないと困りますよ。我々は、やれることはやります。ですが、どうしても、先ほど言ったように、年次計画も必要です。年次計画もある。あるいは財政の平準化もある、その中で最大限のことをやっていくし、私も部長から申し上げたとおり、1日でも早くというのは、それは今でも思っています。思っていますので、それはぜひ、理解をしてほしいなというふうに思っています。

いずれにしても、我々が何も予算がどうこうとは言いたくはないですよ。言いたくはないけれども、それが現実なんですよ。その現実の中で、最大限のことをやるのが、議会や我々政治家の役割だと思っていますので、それはぜひ、そこは気持ちとしては共有をさせていただければありがたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

気持ちはわかります。財政が厳しいというのも重々わかっております。でも、それとこれとは別なのかなと思っています。私が言うのは、いつも、あれではないかと思えますけれども。

でも、本当にですね、武雄市は近隣の市町村から比べてですね、教育については本当に充実しています。たくさんの方の予算も組んでいただいております。それは、本当私は教育に携わる者としてですね、本当に誇りに思っているところです。

でも、この耐震化についてはですね、私も聞いてびっくりしたんですけれども、こんなことがあるのかな。もし、これをきょうは、もう皆さんが見てらっしゃるので、おわかりだと思えますけどですね。あ、うちの北方小学校、それまではないんだな。今市長がおっしゃったのもわかります。北方小学校はまだ新しいです。そんなに古くはありません。

ちょっとお尋ねですけれども、教育部長さん、北方小学校の耐震というのは、どれくらいまでなんでしょうか。わかりますかね。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

実は、文科省の発表による耐震化率の話ですけれども、新聞にはですね、震度6強の地震で倒壊の恐れがあるという建物が、校舎が佐賀県内には11あるというふうに載っております。これは武雄市ではございません、ゼロです。

数字で耐震化の危険性を表す数字として、I s 値というのがございますけれども、0.3 に満たない場合は、震度6強で倒壊の恐れがあるというふうにされておりますけれども、そういった数値の建物は武雄市内にはございません。

北方小学校ですけれども、I s 値につきましては、0.46 ということになっておりますので、

文科省の基準で言いますと、0.7 以下につきましては、補強等をしなければならないということになっておりますので、これにつきましては、工事の対象ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

上野議員さんのお気持ちは、すごく私よくわかるんですね。やはり、もともと学校の先生だっというのと、母親っていうのと、すごくそこはわかっているつもりでいます。

その上で、先ほど部長が申し上げたとおり、私は、極限ということを使わせていただきました。これが全く起きない保障というのはないですよ。ないんですけども、それでもやっぱり震度7クラスで倒壊の恐れのあるものというのは、うちにはないんですね。ないんで1番危ないのはここです。傍聴の席の皆さん達が、震度6以上あったときには、もうほとんどこの世からおさらばになるんですよ。これ3どころか、ここ2.6です、ここは。ですので、武雄市で震度6があったときに、1番先に西方浄土に旅立って行かれるのは、皆さん。いや、これは事実そうですから。あのね、まだね、我々はいいかもしれない、大人は。だけど、これ見てもらえばわかるんですけど、子ども部、2階も非常に危ないですよ、2階も。2階に子ども部を設置しているじゃないですか。あそこ見てもらえばわかるように、小っちゃいお子さんとお母さんがよくお見えになって、本当にこれ危ないぞって思うときに、やっぱりあるんですよ。ですのでそういう公共施設の中でも、やっぱり親子でお越しいただくような所、あるいは年配の方々がお見えになる所についてはね、そこは同じ公共施設として早めにしなきゃいけないっていうように思っています。

いずれにしても、今の学校の教育施設については、もともといいもの、北方の小学校であれば、松本町長さんだったり当時の石丸教育長さんが本当にいいものをつくってくださってますので、そういう意味でいうと、極限の状態が起きたら、それはどこもひとたまりがないことになりますけれども、我々は、そういう現実の世界の中で優先順位はやっぱりつけさせていただくと。これが政治と行政の役割だという認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。いま、きちんと聞いてですね、よくわかりました。

本当に、教育長にしろ、市長にしろ、子どもに対する耐震、学校に対する考え方、本当に気持ちは一緒だと思います。だから、お願いがあります。

北方小学校には、そのほうを、そのことをですね、やっぱりきちんと、先生方にもみんなにも周知をしていただきたいと思います。もし、ないとは限らないんですね。だからもしこのときには、ここはここまでしか持たないというようなことをですね、はっきり先生方も知

っておかなくてはならないかと思しますので、その辺は教育長のほうに、よろしく願いをしておきたいと思ひます。

それでは、地震が来ないことを願って、1日も早く、とにかく1年でも早くですね、耐震が終わることを願って、次の質問に移りたいと思ひます。

次は最後に、保健センターの位置づけについてです。

この保健センターについては、私は21年の、これは平成です。21年の12月に質問をしております。

検診について、市の文化会館について、検診の状況についてということと、それから、保健センターの設置についてを質問したと思っております。

そのあとですね、どのように改善されたのかを、お聞きしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

議員のお尋ねの分は、多分住民健診の件だというふうに思ひます。住民健診につきましては、両保健センター、および、武雄につきましては、文化会館のほうで実施をしているところでございます。

特に、文化会館で実施しておりますときに、乳がん検診ですね、乳がん検診につきましては、見たり触ったりということ、触診ということ、検診が行われておりますけれども、1階では、プライバシーが保てないというふうなところで、御指摘をいただいたものと思っております。大ホールの1階で実施しておりましたけれども、乳がんの医師触診会場につきましては2階のほうにですね、乳がんだけ2階に会場を移したというふうな部分と、あと、あわせまして、希望される方につきましてはですね、病院で個別検診ができるように環境の整備を図ったところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にいろいろと工夫・改善されていらっしゃることを、嬉しく思ひます。でも、満足ではないでしょうけど、ずいぶんと改善されたと思ひます。

では、保険センターの位置づけについてですけれども、今、山内と北方に保健センターがあります、その両保健センターの利活用について、ちょっとお聞きしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

山内と北方の両保健センターにつきましては、健康づくりの拠点ということで、地域組織

や関係機関との連携を図りながら、健康についての市民の意識向上、疾病予防と早期発見を目的に、いろんな保健事業等を実施しているところでございます。具体的には、乳幼児検診とか、総合検診、あるいは予防接種、健康相談、健康教育、子育て支援事業などを実施しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

私も北方の保健センターには、子育て支援センターもありますので、ときどきお世話になります。そこは本当にですね、いつも賑わっております。年間で大人が 8,490 人、子どもが 7,034 人とですね、来館者が多くてですね、活発な活動をされております。新しいセンター長も決まってですね、いろんな事業に取り組んでおられます。それは、子育て支援センターとしての活動をしてらっしゃる。

建物の看板は保健センターとなっておりますが、保健師さんは常駐はしていらっしゃいませんよね。いらっしゃるのはいらっしゃるんですけどね。

だから、山内の保健センターのほうも、どういうふうにご利用されているんですか、検診以外に。今、おっしゃったような、部長がおっしゃったような検診は年間に何日かです。そのあとは北方の保健センター、子育て支援センターのほうで、利用をしてらっしゃるといことですけども、山内のほうはどんなふうな利用をされているのでしょうか。検診以外のとき。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

山内の保健センターにつきましても、検診以外では、先ほど言いました、子育て支援ということで母親学級とか育児サークル、そういうものを実施しております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

元来、保健センターというのはどういう役目があるのかなと思っておりますけれども、住民の健康を考えるですね、病気を未然に防ぐ、そのためにある保健センターだと思っております。保健師さんたちの活動については、市報などに書いてあるたくさんの方の活動をしていらっしゃいます。ゼロ歳からお年寄りまでですね、いろんな活動をしていただいておりますが、その保健師さんたちも両方分かれて、真ん中にいないっていうのは、本当、活動しにくんじゃないかなと、私も思っております。

それから私のほうに寄せられた意見ですけども、元北方町ですけども、保健センター

があったときには、ちょっと病院までは行かんでよかばってん、保健センターに行って、保健師さんのほうに、ちょっと血圧を測ってもらって、ちょっとこがんあるばってん、どがんやろかと言って、相談をする。保健センターに行ったら、健康のことは何でもお聞きできるという安心感があったということ。

武雄市に、21年度のときにも言ったと思いますけれども、武雄市にないのは、本当に不思議だなと思っております。

そのときの市長の答弁は、財政厳しい状況だから、どうしようもないということをおっしゃいました。そのときにも最後に市長は、できないことよりできることを考えていくようにしようということ、答弁にしていらっしゃいます。

私はいろいろ申しましたけれども、中央にですね、健康を守る拠点として、やっぱり要るんじゃないかなと思うんです。そしたらそこに保健師さんたちも、みんないろんな活動、話し合いをされながら、武雄市をいろんな回られて、いろんな活動がされるんじゃないかな。今まで武雄市の方は、どこにそんな相談に行かれたのかなと思っております。武雄市の市役所にあるよとおっしゃってましたけれども、市役所には、部屋みたいな部屋がありますけれども、相談をするような部屋ではないと思いますけどね。

そんなことどうでもいいですけど、これから、それこそまた命を守るということになりますけれども、中央には私はやっぱり、保健師さんが要るんじゃないかなと思うんですよね。両保健センターはそれぞれの活動をしながら、保健センターとしての役目も検診時はしています。それはそれでいいと思います。でも本当に中核となる私たちの1番大事な健康を守る保健センターが、中間があるべきじゃないかな。

これは提案ですけれども、幸い、ちょっと待ってくださいね。幸い、市庁を新築するようになっております。私が質問をしましてから3年8カ月経っております。私は保健センターの話が何か出るのかなと思って考えておりましたが、出ておりません。

この際、本当に私が中央におってですね、みんな、保健師さんたちが一緒になって、いろんなことを考えながら行事を進めていただいて、私たちも行きやすい、そしてみんなの健康を守るですね、健康の拠点にしていきたいと思います。

新庁舎の、不随してでも、1つの部屋でもですね、保健センターとしてできれば、本当に幸せだなと思いますが、市長の考えはいかがでしょう。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、新庁舎については、具体的には私どもも、今、案をつくっていますし、いずれにしても議会がまた、これ、誰が委員長でしたっけ。山口昌宏委員長さんが、まあ、中心となって、私がカウンターパートですので、また議論をするという運びになっていって、最終的に

は、その市民の皆さんたちが決める市の庁舎という運びになってまいります。

その中で、私は今度新しい庁舎の中に、いわゆる山内とか、北方のようなあのスペースをここにというのはあり得ないんですけど、先ほど議員がおっしゃったように、そういう、例えば相談する部屋とか、血圧を測る部屋とか、気軽に市民の皆さんたちが、自分の健康をどんな感じだろうとか、1回ちょっと見てみようよとかいう形で行くスペースは、ぜひ御用意をさせていただきたいと思いますし、これは繰り返し言いますが、議会が、また、特別委員会が、最後お決めになる話ですので、またそれは議会の中でも、ぜひおっしゃっていただきたいと思います。

一方で、私は、これはさまざまな議員さんからおっしゃってますけれども、あんまり真ん中に集めるとというのは、僕は反対なんです。そうすると、あんまり機能を真ん中に集めると、それこそ周辺部に活気とか元気がなくなりますので、私は、少なくともそういう山内、北方で保健センターがお世話になってるということは、これは本当にありがたく思っていますし、むしろ、北方の皆さんと話していると、北方の保健センターが武雄まで来なくてね、自分たちのところにあるというのは、本当にいいことですよということを、ある集会でもおっしゃってください。山内でも、実際は同じ話を聞いています。ですので、ただし、フルセットでつくるというのは無理なんですね。あるものをもう一回つくるということになると、それは財政上の問題もありますので、そういった中で、先ほど言われたように、できない理由よりできる理由。今度、庁舎が新しくなるときに、そういうスペースはぜひつくりたいなと思う次第であります。

本当にですね、これこそが私は一般質問だと思うんですよ。やっぱり市民の皆さんのニーズを踏まえて、何て言うんですかね、こうしたいんだとか、するべきだということをおっしゃっていただくということが、一般質問の大きな役割だと思っていますので、そういう意味では、上野議員さんには深く感謝をしています。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当に、今ある両保健センターをそのまま、大いに利活用できると思います。中央に本当にそういう部屋があれば、私たち市民はとっても安心でございます。どうぞ、本当に厳しい財政の中、いろんな要望を申しましたけれども、みんな市のため、子どもたちのためですね、少しでも一歩前進するようと思って、意見を申し上げました。

これで、私の一般質問を終わります。